

## 第4回国際動物園教育者協会例会報告

### A Report of "The 4th Conference of the International Association of Zoo Educators (IAZE)" in 1978

遠 藤 悟 朗\*

Goro ENDO

The above-mentioned Association was inaugurated in 1972. It holds its Conference every second every year. In 1978 we held the Conference as a 4th at National Park in Washington D.C., U.S.A. The theme of the Conference was: "Zoo Education: Reaching Different Audience Through Varied Programs" Program for families, Innovative program for elementary students, Materials for the general public, Program for high school students, programs and materials for the handicapped.

Those topics were taken up in the Conference held during the four days beginning on 26th through 30th in September.

The attendants in the Conference were about 44 from 9 countries, the items reported being 14.

Now I am going to present the outline of the association; programs concerning families on which the Conference laid special stress; the report of the AAZPA education survey; snaps given by the writer and some others, i.e. the outlook and tendencies.

表記協会は1972年に創設され、隔年に例会を開催している。1978年は米国ワシントン市ナショナルパークを会場に第4回IAZE例会が開催された。テーマは動物園教育——低学年対象の革新的なプログラム、一般来園者用教育器材、高校生対象のプログラム、および身障者のための教育器材とプログラムであった。

例会は9月26日から30日迄4日間開催され、参加国は9ヶ国、44名、発表議題は14題であった。

協会の事業の概要と、例会で大きく取上げられた家族対象のプログラム、AAZPAの教育調査報告、筆者が発表した要旨ならびにその他の概要と傾向を報告する。

#### I IAZEの概要

国際動物園教育者協会は、欧米の動物園で教育事業にたずさわる有志が、1971年英国のベイングトン動物園に集り、動物園教育事業推進の目的で同協会発足が討議され、そして発足の決議がなされた。

1972年独逸国フランクフルト動物園で第1回の例会が開催され、以後隔年に例会が開催されている。ちなみに第2回は英国ロンドン動物園、第3回はオランダのアムステルダム動物園(アルティス)、そして第4回は米国ワシントン市にある国立動物公園での開催となった。

会員は正会員、準会員ならびに団体会員があり、準会

員は教育事業の専任者以外とされており、会費を徴集して会務を運営するかたわら、例会時には別に参加費を徴集している。

現在会員数は正会員68名、準会員25名、団体会員17団体(1978)である。(15か国)

会員相互で密な文献等の交換がなされているほか、協会としてニュースレターも刊行している。第1号は1974年にA5版32ページのものを、第2号は1978年に同44ページのものを刊行した。

事務局は米国ニューヨーク動物公園に置かれていたが、1978年に独逸国フランクフルト動物園に移された。

第4回の例会は1978年9月26日(火)～29日(金)の

4日間, 前記ワシントン市国立動物公園を会場にして開催された。

参加者は44名で, 開催国の参加者は27名, オーストラリア, ベルギー, カナダ, 西独, 英, オランダ, サントドミンゴ, スウェーデンならびに日本の9か国から計17名が出席した。

例会は研究発表, パネルディスカッション, 討論, 施設ならびに実施状況の見学, 加えて総会が行なわれた。

今回のテーマは「動物園教育— 各種利用者に到達できるさまざまな教育プログラム」とされ, 家族対象のプログラム, 低学年対象の革新的なプログラム, 一般来園者用教育機材, 高校生対象のプログラムおよび心身障害者のための教育機材とプログラムがあげられていた。参加者が持参した発表議題14題中, 個々のプログラムに関係したものが7題, 動物園教育全般あるいはその他に属するものが残りの7題であった。

以下項を改めて, 一般来園者とくに家族対象のプログラム, 全米の子ども動物園の調査, ならびに筆者が発表した内容などを記す。

## II 家族連れ来園者のためのプログラム

上記個々のプログラムに関した発表7題は, すべて米国の園の教育担当者によるものであった。

そのうちワシントン国立動物園では教育部主任, 同友の会会員そしてスミソニアン研究所所属同等者によって標記の発表がなされた。

この他に表題は別につけられていたが, シアトル市のウッドランドパーク動物園教育主任, ボストン市のフランクリンパーク動物園教育部長も類似した問題についての発表があった。

国立動物公園では従来学校団体に対して自分自身による案内見学 Self Guided Tours というものが行なわれていた。同園では10, 11, 12, 1, 2, 3, 4, 5月の8か月間の園の閑散教に限って, 各種教育活動が学校団体などに行なわれてきた。そして年少の3才以上の幼児などに対しては, 引卒者に事前に動物園の案内書を配付して, 引卒者自からが, 自からの団体に対して案内指導をする形をとっていた。また動物園教室(国立動物園内教育会館内に設けられている)各種器材, 自園製の書籍, 標本, 模型などを適宜使用させていた。

この種の方法をさらに一般来園の希望者, 家族に向けて新たにプログラムを設定して発足したのが, 家族連れ来園者のためのプログラムである。

希望者に対しては下記プログラムの何れかを定めさせ,

事前に付添者にそのプログラムを学ぶのに必要なパンフレットを配布し, 事前に読ませた上で来園させる。来園した際にはその旨を登録し, 付添者多くは親であるが, パンフレットに従いながら特定の動物を見てまわるのである。

なお同国立動物園内には, トーテムポールのような選択巡路道標が14本立てられており, また6通りのテーマで, その代表動物の足あとが記された道をゆけば, それぞれの目的が達成されるようになっている。

自分自身による案内見学のテーマは①世界のほ乳類, ②絶滅に瀕した動物, ③は虫類と両生類, ④ネコ科動物, ⑤鳥類, ⑥サル類, ⑦は虫類館, ⑧ゾウ室, ⑨有蹄獣地区などとされている。

自分でその家族と一緒に見学をし, きめられた場所(④～⑨の設定された場所)に行けば, バッジと肩帯をつけた優秀なボランティアが待ち受けていて, 更に細かい説明や, 質問などに応じてくれるのである。1.テーマの所要時間は午前・午後2時間半で, その何れかを選択できるようにしている。

とくに幼ない学令前の子どもに対しては, 動物園教室だけのコースもあり, パズル的な遊び, 言葉あそび, その他触感覚や臭感覚を用いる, あそびの要素をもそなえた数多く教材が見えられていた。

ボストン市のフランクリンパーク動物園では生息地や生息環境にテーマを置き, 来園前の黄色いシート(A4版2面), 来園時に園内で見られるものと見たことを記載できる緑色のシート, 帰宅後に用いる青色のシートの3枚から成っており, 青色のシートには見学した内容を整理するためのパズルや用語を教えるための算数問題が作られていた。動物学的な知識だけを知らせるだけでなく, 用意された絵と使用した色の意味であるとか, 色分けをされた全体の目的, 生息環境についてのまとめにも用いられている。

シアトル市ウッドランドパーク動物園では同地で開催されたであろう, エジプトのツタンカーメン展に出て来た動物を, 動物園で飼育している動物を用いての考察や考証がなされていた。

そして動物園利用前後の理解程度を調査して, 効果があがったと説明していた。

例会のテーマ分類によれば, 小学校低学年児童対象の革新的なプログラムに入るかもしれない, Sherman Rosenfeld, Lawrence Hall of Science, University of California, Berkeley による, 形式張らない教育活動のモデルとしてサンフランシスコ動物園での試みの発

表があった。

これは動物園に来あわせている低学年の小学校児童に直接呼びかけて行なった活動で、動物を交えたり、子どもだけの遊びなどを盛込んだ。1時間程度の教育活動の結果の分析であった。

特別に動物園への問題意識を持たずに来園した児童でも、導入如何ではかなりの成果があげられるというものだった。今後このような活動の定着が見られるならば、園としても効果的であろうし、要望も高まるであろうと述べていた。

これまで記してきた家族連れ来園者のためのプログラムをはじめ、園に来あわせている児童を対象とするような、一般来園者向きの活動を米国では現在さかんに取組んでいる姿が見受けられた。

討論会の分科テーマも、来園者自身による案内見学、パンフレットやその他の印刷物、ならびに表示や案内板があげられていた。

### Ⅲ AAZPA教育調査(全米の子ども動物園調査)

ニューヨーク水族館教育部主任が、1975～1976年に全米の動物園付属の子ども動物園47園と独立した子ども動物園10園計57園に対してAAZPA(American Association of Zoological park and Aquarium)が調査したものの集計結果の発表である。

調査内容を要約すると20項目にも及ぶ、かなり膨大なものであった。

①創設年代 世界で初めて創られたとされているポルトガル、リスボン市動物園のものは1908年で、米国で最初に創られたのは1930年フィラデルフィア動物園である。現在の子どもの動物園創設年代で最も高いのは6～10年以前(1966～70)29.82%、1～5年(1971～1975)26.32%、両者を加えると半数を上回る。16～20年以前(1956～60)17.54%、20年以前(1930～56)10.53%、園数は6園である。

②敷地面積 4,000～12,000㎡が45.61%、12,000～12,200㎡24.56%、最も広いところは15ha、というものである。

③入園料 有料は56.14%、無料は43.86% 大人は♢10～\$1.50、小人は0～♢75

④親動物園からの流入状況(47園中34.04%か回答) 25～50% — 61.54%、25%以下 — 23.08%、75～100% — 15.38%、50～75% — 0

⑤利用者年令 1～5才26.32%、6～10才29.82%、11～15才15.78%、16～20才17.54%、20才以上15.53%

⑥開園期間 1年中50.88%、夏季のみ49.12%

⑦入園者数 季節別の記載で細かすぎるので省略、大体18万～111万人である。

⑧年間の経費 独立園で有料の園は、入園料などの収入金で不足する分を、市や州などからの補助を受け、同無料園は全額を市や州などから受けている。

親動物園に付属し、入園料を徴集する園の中、経理を独立させている園は35.25%で、その中の60%は入園料収入のみでまかなっている。その他は市費州費の補助を独自で受けている。

親動物園と経理を共に行うところは68.75% 入園料の他に譲与金、税金、寄付金、えさ販売の収入も含めて運営しているところが上記の中の45.45%、入園料だけでまかなっているところが36.36%、残りはその他となっている。

⑨特殊な教育プログラムと教育器材の有無

ない 17.54%、いくらかある 82.46%(このうち1つのみと記載があるのは17.54%1つ以上が64.91%)である。

⑩標示と図示の有無

ない 10.53%、ある 89.47%(このうち1種のみ68.42%、1種以上21.05%)である。

⑪サイン類の書き手

業者45.10%、子ども動物園管理者23.53%、デザイン部門9.08%、ドーセンツ7.84%、

⑫子ども動物園存立の価値 認めない24.56%、認める73.68%、認める理由として動物の健康、動物の福祉の増強、来園者に好評、園の経営に役立つなどがあげられていた。

⑬収容あるいは収容希望の動物型(野生・家畜・外国産)

複合型57.90%、単一型31.58%

⑭コンタクト・エリア(動物をならし、来園者に触れさせる区域)の有無

あり96.49%、なし3.51%

使用する動物は、家畜のみ65.45%、家畜と野生動物9.09%、さらにこれに外国産動物を加える25.45%。

実施に当る人が一定81.82%、不定18.18%

⑮子ども動物園職員 常勤者なし7.14%、2～4名35.71%、5～8人32.14%、最多は21名があった。

アルバイト雇用2～4人32.14%、最多は32名。

園長の有無 あり28.07%、なし71.93%

⑯ボランティア

あり71.93%。行なわせている業務は、業務全般60.98%

%, 監視のみ 17.67 %, 講話案内 12.20 %, 動物以外のサービス 7.32 %.

⑦子ども動物園の配置や展示のテーマの種類 農場又は納屋周辺 52.94 %, 童話又は童謡 20.59 %, 動物の子ども部屋 11.76 %, 自然の野生状況 8.82 %, 動物園の小庭園 2.94 %, 熱帯園 2.94 % そしてこれらのテーマを引続き使用しているが 82.35 %, やめたが 17.65 % であった. 続けているテーマと園数を記すと, 納屋周辺 7, 野生状況 3, 童話 3, その他 5 で, やめたものは, 童話 4, 納屋 1, その他 1 となっている.

⑧特殊な問題点として取上げられたもの 事故 61.40 % (35園), 来園者による破壊行為 52.63 % (30園) その他として何らかをあげたものが 54.39 % (31園) この項のパーセントは項目全部を 100 として記されたもので,

1 園で何項もの記載を認めていた

この特殊な問題と表裏の関係にある, 子どもたちに能動的に行なわせる問題をみると次のとおりとなる.

飼育に参加できるか? できない 61.40 %, できる 38.50 %. できる内容として人工は育, 組織されたグループ活動, 給餌, 手づくりなどが上げられている.

いっぽう来園者に給餌させる問題は, 不可 21.05 %, 量を制限して与えさせればよい 66.67 %, 無制限に与えさせてよい 12.28 % となっている.

なおこの報告に記されているパーセントの数字の中で, 100 に満たないものがある. これは無回答や少数のものなどを筆者が削除したことをここで付記する.

#### IV Historical Review of Educational Activities at Zoos in Tokyo, Japan

##### 1. Introduction

Ueno Zoological Garden in Tokyo was opened in 1882 as the first zoological garden in Japan.

The size of this Ueno Zoo, when first opened, was thus very small in scale. But the people concerned felt the importance of the educational significance it has on society. Whenever some improvement was made in the environment for breeding of the animals, they took the chance to enhance the effects of display. And the people saw importance in labels, and close cares were taken of the identification of animal species.

In those days, the conditions of Ueno Zoo was far from allowing them to concentrate on the educational activities. We sincerely pay respect to the endeavor and enthusiasms of these personnel of the past days for the social education.

Today, Ueno Zoo has a site area of 13.9 ha, with 8,921,804 visitors during 1977. The number of its animal specimen is 1,387 of 341 species. Besides, there are an aquarium.

In addition, Tokyo Metropolis government also runs Tama Zoological Park, which was opened in 1958 and now has a site area of 52.3 ha, recorded 1,659,676 visitors in a year, and keeps 1,895 animal specimen of 194 species, beside an insectarium.

For the convenience of analyzing the educational activities in zoos, the elements of the activities may be classified as the following:

#### DIVISION OF EDUCATIONAL ACTIVITIES IN ZOOS

1. Contents
  - A. Life (live animals)
  - B. Others (specimen, model, literature, data)
2. Object
  - A. Visitor
    - (1) Single
    - (2) Plural
      - a) With organizer
        - 1) Organized by the visitors
        - 2) Organized by the zoo
      - (b) Without organizer
  - B. Non-visitor
3. Method
  - A. Attended
    - (1) Guided and taught
    - (2) Activities in a limited area
    - (3) Event
  - B. Not attended
    - (1) Layout and kind of facilities

- |   |   |                |
|---|---|----------------|
| } | (2) Display and labels                          | (a) Short term |
|   |   | (b) Long term  |
| } | (3) Publications, teaching aids for taking home |                |

By combination of these different factors, one can find various categories of the educational activities. A number of our activities, which we have developed on our own initiative, will fall on this or that categories. And we can review how these activities resulted from specific solutions went to the problems under the given trying conditions of each zoo.

Today, I shall outline the activities mainly falling on the Categories 3-A and 2-A-(2) as well as 1, above, which have been organized at Ueno and Tama zoos.

## 2. Activities of Organizing Visitors by the Zoo

There is the kind of educational activities by a zoo to call for applicants for visiting the zoo. Thus the applicants are organized by it and led according to its intention.

### 1) Summer School

A summer school was first held by the Itotsu Recreation Ground Zoo in Kitakyushu City in 1937. Later in 1949, Ueno zoo started to organize a summer school for primary school and junior high school children. Its purpose was to explore the possibilities for a kind of zoo education activities: that the zoo collects visitors, including single and plural visitors, and give them a course.

Applications were invited for the school by newspapers and radio, but applicants counted very few it is only one.

One of the factors for this seems that, in those days, most of the general visitors felt that a zoo was not a site for study and education. Newspaper reports about this event were found not stressing on the invitation to the school, but rather on how the summer school at the zoo was. This suggested the zoo people an idea for the next time. They made their best to make an interesting news in the introductory part of the first day lesson of the school. For instance, a question was posed to the attendants — how an elephant would eat a big water melon of 40 cm in diameter. A water melon is a very popular fruit for Japanese families in summer.

Some imagined that an elephant would bite it with his mouth to break off pieces for eating. Some said he will strike it to split into piece by his nose. After obtaining most types of answers, the organizer called all the attendants to carry a heap of water melon to elephant's house by a palanquin, joyously shouldered by a number of people as if it were a potable shrine in a traditional Japanese festival. And all the people then watched attentively how the elephants ate them.

Such approach help the summer school of Ueno Zoo gradually better known by the public. Besides, people come to have stronger demands for zoo education service, and yet it took 10 years before the school could have more applicants than its full capacity. Today, the shool enjoys a great number of applicants: it is between 4 times and 10 times of its capacity. And pupils are selected on the first-come-first-served basis at Ueno, and by lot at Tama.

Besides these existing course, Ueno Zoo has experienced the summer school courses for infants, for teacher and teaching-course students, for handicapped children other than the blind, and for the grow up public; of which, the handicapped children other than the blind, and the infants, have been removed from the "summer school courses because day-to-day teaching systems of the zoos have been established for them.

In 1971, the Japanese Assosiation of Zoological Gardens and Aquariums decided that the first week of every August be observed as the Zoo and Aquarium Week. During the Week, one of the events is to promote summer schools and other public educational activities. Since then, summer schools and similar events have been introduced. to zoological gardens and aquariams all over Japan.

## 2) Activities at Mini Farms

at Ueno Aoo

Since 1974, an event called "Mini Farm" have been organized for primary school children visiting the zoo personally. The course takes 30-40 minutes. The total participants during 1977 counted 27,054 in 69 days.

## 3) Parents and Children School

at Tama Zoo

This is an event of a single day course, started from 1969. Varieties of contents are contained in its program, such as a tour guide, lecture, playing with rabbits and other animals, learning the rabbits through a picture story show, questions and answers, and so on. During 1977, it was held on 3 days with a total attendance of 300 people.

To our mind, this event should be further developed and enriched.

## 3. Services for Group Visitors

There are activities of the zoo personnel to give guidance to groups of people, which may temporarily organized by the visitors for this purpose, or may be some permanent bodies.

Such groups can be of youth, women, grow up public, or old people in localities, or can be the organizations related to school education.

All these groups have their own leaders of the day, or of the organization, and we need no service for grouping the visitors.

### 1) Guidance of How to Inspect a Zoo

at both Ueno and Tama Zoos

### 2) Group Guidance at the Children's Zoo

at Ueno Zoo

The main people to be educated at this zoo has been the lower from pupils of primary schools, kindergarten children, the mentally and physically handicapped school children, and the students of teachers college courses. We give the students of teaching courses the practice and lectures about what will be required for their future visit to the zoo with school children under them.

Guidance to the group of school children is given both as the preliminary and the at-the-zoo guidances.

School children who arrive at the zoo are given an introductory lecture by the staff of the zoo.

The handling of llamas, goats, rabbits, guinea pigs, water and land fowls, tortoises and turtles, carps, and the like, should be taught to the children by their teachers themselves personally. The zoo staff help the teachers whenever necessary. They also guide the children for demonstrating some displays. For instance, to give a signal to goats to call them together; or to lead geese to an intended place quietly without touching their bodies.

Finally, the staff call the children together again, give them a lecture to summarize their experiences of that day, and incite their desire for another visit to the zoo, before closing their adventure of the day.

1977	704 times	33,589 visitors.
------	-----------	------------------

In this connection, let me tell you some personal views, I have during and after my 28 years' service to the Children's zoo at Ueno. Now let me discuss the education for children who have been trained by zoo staff, again, this time, about infants.

It seems to us that, today, more children than before fail to make a long-time observation of some animal or animals patiently; in other words, they fail to observe the animals from various view points on their own initiative. Also there are remarkably no small number of children who although fear a goat or the like animal coming closer to them, yet show some food to the animal, so as to cause the kind of result which they actually do not want. One recent tendency is that they often acquire some incomplete knowledge without directly knowing a matter or thing. I feel it necessary to make children experience warm direct contacts with animals, who are leading their own life as we are, so that the children may come to have desirable humanity in their very young days. In Japan it has been urged to give children far more chance to contact animals' life, in order to bring them to a stage preliminary to the next stage of warmly watching the life of animals.

### 3) Show to Become Familiar with Animals

at Tama Zoo

The course takes 40 minutes, with a capacity of 400 men audience. It is given to any group which may apply

for it. The total participants during 1977 were 16,000 of 145 groups.

The above activities, Nos. 1), 2) and 3), fall on the category 3-A-(2) "Activities in a limited area" in the Classification Diagram I have shown earlier. As an established site for this kind of activities, Tama Zoological Park now plans to have an open-air class room, and Ueno Zoo is constructing an Education Center.

#### 4) Tour Guide

at both Ueno and Tama Zoos

Since they are technically too many for us, we give only a minimum degree of tour guide service to group visitors.

#### 4. Services for General Visitors

This is the type of activities carried out by zoo staff personally for a large number of unorganized visitors, or the casual visitors, who may be alone or in a group of more than one people.

The purposes of general visitors to a zoo are various, the number of such visitors are many, and their visiting hours least 8 hours a day. For these reasons, to give education service to all such visitors, which we hope we could have various difficulties.

While we carrying out services to the organized visitors, we have also strived to develop the services for the general visitors, including the following.

##### 1) Contact Corner

at Ueno Zoo

In this corner, an enclosure encircled by a low fence of 8 meters in diameter, with a low 30 centimeter handrail, is available to admit infants of 3 years old or to allow them become intimate with rabbits, guinea pigs, and "ukokkei" which is one of the Japanese fowls. Zoo staff, being helped by 5 women students of colleges who have been trained by zoo staff, are assigned to this corner for this activity, ensuring the security of both the children and the animals. The corner has been established since 1972.

##### 2) Sunday Lectures for Visitors

at Tama Zoo

Since 1969 when the Insectarium Center was opened, lectures have been regularly given to general visitors to the zoo, in the lecture room of the center every Sunday and national holidays from March to November except July and August. The lectures use motion pictures and color slides, and so on.

##### 3) Services of Volunteers

In 1974, the Tokyo Zoo Volunteers was organized. The volunteers are registered when they complete their course of 6 days. Then they will be qualified for participating in various kinds of services.

The services of the volunteers for the general visitors are mainly given on Sundays and national holidays.

#### 5. Conclusion

Many of Japanese zoological gardens have no educational service organizations. Even those of our two zoos in Tokyo are probably not satisfactory in many aspects.

But we admit that, within the existing size or staff and established organization, we have made considerable attainment of zoo education within our limited capacity. We are willing to do our utmost for further development of this service for contributing to society.

#### V その他の発表

英国スリムブリッジ水禽協会での、視覚障害者対象の事業。英国エジンバラ王立動物学協会の、4～7才児の初めて見た動物について。ならびに同園教育部の内幕。サントドミンゴ共和国 Zoodom での教育活動。独逸フランクフルト動物園での、学生教師養成の15年。米国トレド動物園の動物教室。シンシナチ動物園での高校生対

象の教育プログラム。英国ペイニングトン動物園でなされた教育的資源の複合と題する発表は、博物館資料と動物園資料を複合してより高度な内容が教育できると事例を示された。

このほか各園で使用している教育映画の紹介もあり、4日間毎日早朝から夜半に至るハードスケジュールであった。

終りに発表要旨等の印刷物の配布がなく、Ⅲの調査以外はすべて筆者の聞きとりによるもので、なかには聞き違えをして誤った内容を報告している部分があるかもしれないが諒承願いたい。

欧米の動物園は教育部門を独立させて組織しているところが多い。しかし反面実際に動物園の動物を飼育している部門と隔絶されており、教育部門のあり方の見直しがされ始めていると聞く。

開会に当り主催園の Dr. H.T. Reed 園長が歓迎の辞で述べていたことの一部を想起した。

それは「1860年代から1970年代にかけて、人間と動物の接し方には大きな推移が見られた。それとは別に動物園の発足に比べ、遅れて動物園の教育事業は出発した

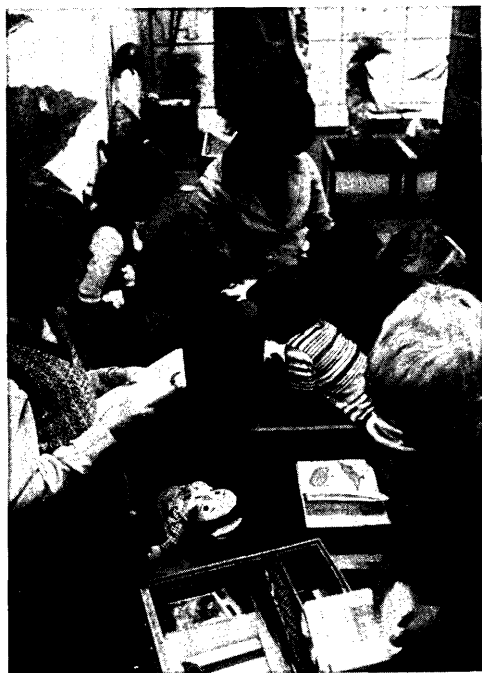
ものだと言える。そのような時代的な遅れをうめる意味でも、今後各位は研究討議を蓄積して今後の動物園事業の発展に役立ててほしい。」との言葉であった。

I A Z Eでわが国では実現されていない活動内容を見聞きしたが、各国それなりの問題を解決しながら取り組んでいるのを感じてきた。動物園教育事業開始の遅れ、新しい別な悩みも生じている。わが国もわが国なりの悩みを乗り越えて、世界的な視野で動物園教育事業を推進させ社会の要望にそいたいと、考えを新たにした次第である。

(えんどう ごろう 東京都多摩動物公園)

\* Tama Zoological Park, Hino-shi, Tokyo

#### ワシントン国立動物公園 教育会館内動物教室風景



ワシントン市内国立動物公園が直接運営している Zoolab は12時～15時まで公開されている。

「学習箱」の中の教材、独自の読み物で事前に準備をし、家族などの単位で動物公園を利用する。